

## ファックス機能

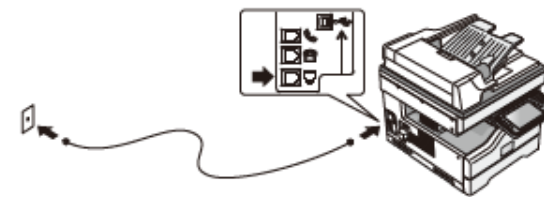
# ファックスのしかた

基本的なファックスの操作手順を説明します。  
詳しい使いかたは、『スキャナー・ファックス編』を参照してください。

## 事前に必要なこと

ファックス送信を始める前に、次の作業を完了しておいてください。

- 機器を電話回線に接続する



- 設置モードでファックス通信に必要な内容を登録する  
下記の「初期設定（設置モード）をする」を参照して、登録してください。

## 初期設定（設置モード）をする

以下の項目を設定します。

設定	内容
言語	画面やリストなどに表示する言語を設定できます。
時刻設定	画面の時刻を正しく設定します。時刻指定送信や通信管理など、ファックスすべての基準になります。
ダイヤル種別	ファックスの受信に必要な設定です。 ダイヤル種別を「プッシュ」、「ダイヤル 20」、「ダイヤル 10」から選択します。選択が正しくない場合は、電話やファックスの発信ができません。「ダイヤル種別の見分けかた」(51 ページ) ハンドセット（オプション）を装着しているときは、ハンドセットのダイヤル種別も設定します。
ファックス受信モード	「ファックス待機」、「電話/ファックス待機」、「ファックス/電話待機」、「留守/ファックス待機」、「ダイヤルイン待機」から、ご使用に合わせた受信モードを選びます。
ダイヤルトーン検出	ダイヤルトーン（ツーという発信音）を検出してから発信できます。通常は ON（検出する）ですが、内線に接続したときなど、交換機側からダイヤルトーンが発信されない場合は OFF（検出しない）に設定します。
発信元名	相手先に自局名（発信元名）を表示させたり、相手先の受信原稿にヘッダーとしてプリントしたりして、受信側でどこから送信された原稿なのかを確認しやすくなります。発信元名の設定には、発信元名とカナ ID があり、それぞれ 3 種類登録できます。 発信元名： 全角で 11 文字（半角で 22 文字）まで登録できます。 カナ ID： 通信中、相手機の画面に表示されます（当社機のみ）。半角で 16 文字まで登録できます。

設定	内容
標準発信元名	登録した3種類の発信元名のうち、常に使う自局名(発信元名)を標準発信元名として登録できます。
発信元番号	発信元名とともに相手先の受信原稿の先頭に印字される自局(送信者のファクス番号)を20桁まで登録できます。
ナンバー・ディスプレイ設定	ナンバー・ディスプレイを利用するときに設定します。ナンバー・ディスプレイ対応電話機を接続する場合も、ここで設定を行います。 ナンバーディスプレイ: ナンバーディスプレイのON/OFFを設定します。 電話機接続設定: ナンバー・ディスプレイ対応の電話機を増設電話に接続する場合は、「増設電話接続」に設定します。その他の場合は、「未接続」に設定します。
タイムゾーン	タイムゾーンとは、グリニッジ標準時(GMT)からの時差(±12時間以内)と同じ時差を使っている地域のことです。日本の標準時は、グリニッジ標準時から9時間先行しています。インターネット時刻設定をご使用になる場合は、タイムゾーンを設定しておく必要があります。
スーパー G3	スーパー G3 を利用する場合は ON に設定します。
ファクシミリ通信網	ファクシミリ通信網を利用する場合は ON に設定します。
記録紙確認ランプ	設定すると、受信したファクスをプリントしたときや PC プリントしたときに、用紙排出トレイ上の用紙が検出され、記録紙確認ランプが点灯または点滅します。

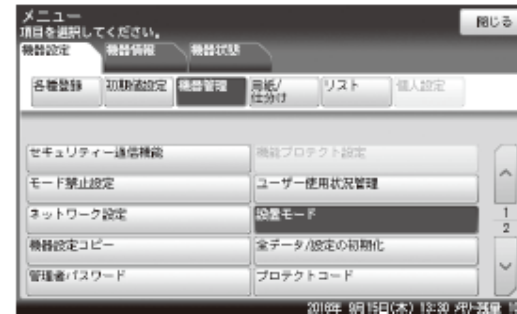
**補足**

- 設定後、機器設定リストをプリントして、登録内容が正しいか確認してください。(メニュー) → [機器設定] タブ → [リスト] → [機器設定リスト] → [はい] と順に押します。
- オプションの2回線キットを装着すると、上記以外にも設定が必要な項目があります。『スキャナー・ファクス編』第4章の「回線を選択して送信する」を参照してください。
- 記録紙確認ランプは、プリントする画像や用紙によっては用紙が検出されず、点灯しない場合があります。

- 1 (メニュー) を押します。
- 2 [機器設定] タブを押します。
- 3 [機器管理] を押します。
- 4 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。  
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順5に進みます。

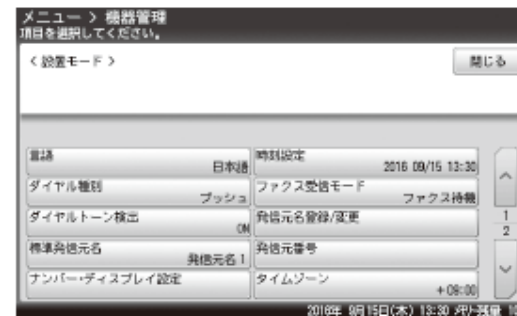
操作方法

**5 [設置モード] を押します。**



**6 設定したい項目を選択します。**

「ダイヤル種別」は必ず設定が必要です。



**7 選択した項目を設定し、[確定] を押します。**

- 発信元名を登録するときは、さらに[発信元名登録/変更]を押して[発信元名1]や[カナID1]などと押します。
- ナンバー・ディスプレイの設定をするときは、さらに[ナンバー・ディスプレイ]を押して、設定のON/OFFを選択します。接続している増設電話がナンバーディスプレイに対応しているときは、[電話機接続設定]を選択し、[増設電話接続]を選択します。
- ダイヤル待機の設定方法については、『スキャナー・ファクス編』第4章の「受信のしかた」の「1 回線で複数の番号をつける(ダイヤル待機)」を参照してください。

**8 登録が終了したら、[閉じる] を押します。**

(リセット) を押すと待機画面に戻ります。

ダイヤル種別の見分けかた

- 1 本体を設置したら [ダイヤル種別] で「ブッシュ」を選択して、「177」（天気予報）にダイヤルします。＜通話料金がかかります＞
- 2 電話がかかれば、設定は終了です。
- 3 電話がかかからなければ、[ダイヤル種別] で「ダイヤル 20」を選択して、「177」（天気予報）にダイヤルします。＜通話料金がかかります＞
- 4 電話がかかれば、設定は終了です。
- 5 電話がかかからなければ、[ダイヤル種別] で「ダイヤル 10」を選択します。

ハンドセット（オプション）の回線の合わせかた

ダイヤルタイプ切替スイッチをダイヤル種別に合わせます。  
 ダイヤル種別が「ブッシュ」のときは、「ブッシュ」に合わせます。  
 ダイヤル種別が「ダイヤル 20」と「ダイヤル 10」のときは、「ダイヤル」に合わせます。

補足

ダイヤル種別が「ダイヤル 10」のときは、ハンドセットのテンキーを使って電話をかけることはできません。この場合は、操作パネルのテンキーを使用してください。

操作方法

基本操作

1 原稿をセットします。

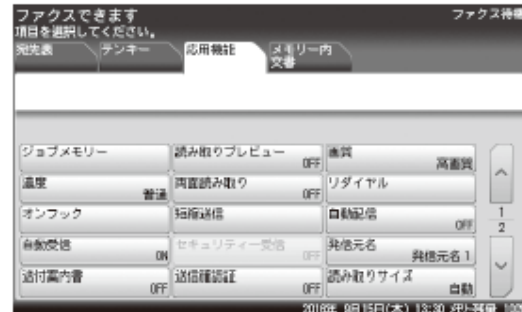
- ・機器が節電モードになっているときは、〈節電〉を押して節電モードを解除してから操作を始めてください。（→ 13 ページ）
- ・原稿セットのしかたは、「原稿をセットする」（27 ページ）を参照してください。



2 〈ファクス〉を押して、ファクスモードにします。

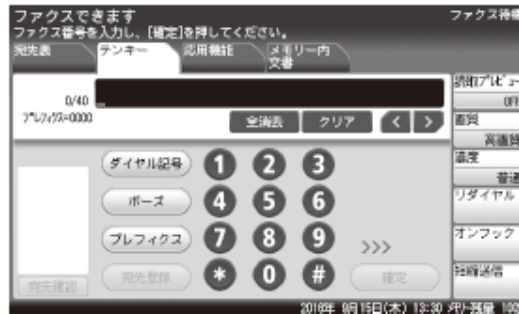


3 [応用機能] タブを押して、必要な機能を設定します。



#### 4 [テンキー] タブを押し、テンキーでファクス番号を入力して、[確定] を押します。

- ・操作パネルのテンキーでも入力できます。
- ・相手先が宛先表に登録されているときは、[宛先表] タブで宛先を選択できます。
- ・複数の宛先に送信する場合は、この手順を繰り返します。



#### 5 (スタート) を押します。

- ・複数の宛先を指定した場合は、(スタート) を押した後、宛先確認の画面が表示されます。宛先に間違いがなければ、[確定] または (スタート) を押します。
- ・原稿を原稿ガラスにセットした場合は、原稿の読み取りが完了すると「次の原稿をセットしてください」というメッセージが表示されます。複数枚の原稿を読み取るときは、次の原稿をセットして、[次のページ] を押してください。すべての原稿の読み取り終了後、[送信開始] を押すと、送信を開始します。

#### 補足

- ・よく使う宛先は、宛先表に登録しておくことで送信のたびにファクス番号を入力する必要がなくて便利です。(→87 ページ)
- ・宛先を入力するには、以下の方法があります。本書ではテンキーで入力する方法を説明しています。詳しくは、『スキャナー・ファクス編』第6章の「宛先を指定する」を参照してください。
  - ・宛先表から選択する
  - ・宛先を検索する
  - ・宛先を直接入力する
  - ・短縮番号を入力する
  - ・履歴から選択する
- ・(スタート) を押したあとで表示される宛先確認の画面が不要なときは、以下の手順で表示の設定を解除できます。(メニュー) → [機器設定] タブ → [機器管理] → (必要に応じて、管理者パスワードを入力) → [セキュリティ-通信機能] → [宛先確認] → [OFF] → [確定]。詳しくは、『スキャナー・ファクス編』第4章の「セキュリティ機能」の「宛先確認を設定する (宛先確認)」を参照してください。